

BUSINESS REPORT



110th
Innovation



株主の皆さまへ 第108期 報告書

2017年12月1日から2018年11月30日まで

キーワードで知る津田駒

P7

ティーバッグ

津田駒工業株式会社



代表取締役会長 菱沼捷二 (右)

代表取締役社長 高納伸宏 (左)

2018-2020 スローガン

トップを目指せ
強い津田駒 新たな挑戦

連結業績ハイライト

受注高	経常利益
47,506 百万円 (前期42,799百万円)	841 百万円 (前期356百万円)
売上高	親会社株主に帰属する当期純利益
42,201 百万円 (前期39,686百万円)	823 百万円 (前期183百万円)
営業利益	1株当たり当期純利益
934 百万円 (前期622百万円)	128.91 円 (前期28.73円)

※当社は平成30年6月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。
これに伴い、当該株式併合が前連結会計年度の期首に行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算出しております。

第108期報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。平成30年度におきましても、全国でたくさんの自然災害が発生しました。被災されました皆さまには、心からお見舞いを申し上げます。

Q 10期ぶりの復配となりました。

A まだまだ十分とは言えませんが、大きなステップと考えています。

おかげさまで平成30年度は3期連続の黒字を確保し、1株当たり15円の復配を実現することができました。配当の金額としては、まだまだ株主の皆さまの満足のいく数字ではないことは十分に承知しておりますし、私自身、今の津田駒が持っているポテンシャルは、この程度のものではないと考えています。ここをスタートとして、もっともっと株主の皆さまに満足いただける、また、従業員も充実して働ける会社にしていきたいと思っています。

そのために、私たちは今「中期経営計画2020(2018~2020)」を立て、「トップを目指せ 強い津田駒 新たな挑戦」という全社スローガンの下で活動しています。利益体質の定着という段階から、利益を拡大できる企業体質への挑戦を進めているところです。

Q 「中期経営計画2020」で重視している点は？

A やはり、利益にこだわっていききたいと思います。

「中期経営計画2020」の中では、2020年度に連結売上高600億円、営業利益率10%を目指すという数値目標を掲げています。また、圧倒的な性能・技術を有する新製品を開発すること、既存事業における市場の拡大とシェアの確保、コア技術を生かした新規事業の拡大などを骨子として取り組んでいます。この中で、特にこだわって従業員に伝えているのは営業利益率です。もちろん売上の達成も重要ですが、変動の大きな事業環境の中で、しっかりと利益を確保できる体制を再構築することが、津田駒が成長を続けるために一番重要なことだと考えています。

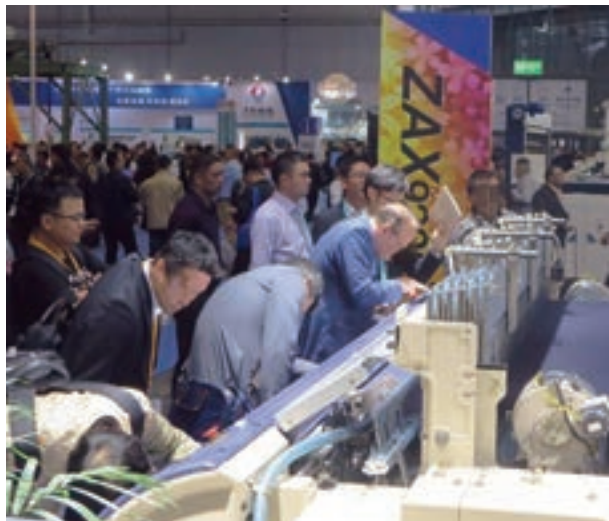


このために、設備やシステムへの積極的な投資を計画しています。また、投資効果を最大限に発揮させるために、従業員が主体となって進める社内の改善活動にも力を入れています。

Q 足元の状況は？

A 米中貿易摩擦の影響は注視しますが、大きな崩れはないとみています。

米中貿易摩擦の影響は注視しています。しかし、今のところ繊維機械でも工作機械でも、米中貿易摩擦が原因で計画を取りやめるといった動きにはなっていないように感じています。ただ、今後の動向を見極めるために計画を少し遅らせるという案件があることは事実です。いろいろな方にご意見



環境性能に注目が集まった中国展示会

を伺いますが、総じて設備投資意欲は高く、心理的な部分が解消されれば状況は改善するという見方が多いように思いますし、私も同意見です。

繊維機械事業は、中国とインドが中心市場です。中国市場では、昨年からの厳しい環境規制に伴い、環境基準を守らずに違法操業などをしていた織布工場が操業停止となり、そういう工場で使われていた中国製ウォータジェットルームの大量廃棄が進んでいます。これに伴い、当社の高性能ウォータジェットルームへの買い替え需要や、エアジェットルームへの転換需要が続いています。昨年10月に上海で開催された国際繊維機械見本市でも、当社小間は盛況でした。中国市場で、量から質への転換が確実に進んでいることを実感しています。インド市場では、経済改革が進む中で、設備投資意欲は高い状態が続いています。ただ、制度改革などに伴う混乱や銀行の融資審査の厳格化による業務の遅れなどが発生しています。当社に関係するところでは、商売の決済に必要なL/C（信用状）の発行遅れなどが影響として表れています。こうした特殊な状況はありますが、確実に市場が近代化している証だと思しますので、これからも需要の掘り起こしに注力していきます。

工作機械関連事業では、引き続き自動車業界を中心に設備投資が進むとみております。当社の生産枠も上半期は埋まっている状況です。設備投資を進め、生産性の向上と増産を図るとともに、生産効率の改善、納期の短縮に努めていきたいと思っています。

Q 新規事業の進捗は？

A お客様と密着して開発を進め、着実に実績と経験を積んでいます。

炭素繊維複合素材の加工装置を中核とするコンポジット機械事業は、特に航空機分野などで着実に認知度を高めています。現状では、繊維機械のように多くの台数が売れるものではありませんが、炭素繊維という優れた素材を活用した新しい製品づくりを目指すお客様とじっくり話し合いながら、世界で一つだけの装置の開発、提供を進めています。国内にとどまらず、海外のお客様との商談も増えてきました。一つひとつの実績が、将来の量産化の礎になると思います。

TRI（ツダコマ・ロボティック・インテグレーション）は、多方面から注目をいただいています。人手不足、働き方改革が課題になる中で、ロボットの活用は外すことができません。TRIは、部材の



コンポジット機械



TRIによる社内加工設備

搬送や工作機械との連携、治具の設計、ロボット動作のプログラム、加工工程全体の制御など、モノづくりに必要な様々な要素を一括して当社が設計し、ご提供するサービスです。モノづくりの津田駒だからこそ、お客様の期待にしっかり応えることができると考えています。TRIの販売促進のために、当社の工場にTRIを使った自社部品の加工システムを構築し、お客様に見学いただいています。自社の生産効率化を進めながら、販売促進を図ることで、より説得力のあるアピールができると考えています。

2019年は、当社の創業110周年にあたります。将来、2019年を振り返った時に、津田駒が大きく変わった時期だと評価していただけるよう、グループを挙げて努力してまいりますので、引き続き、ご支援をお願い申し上げます。

事業別の状況

繊維機械事業

受注高

37,827 百万円 (前期比15.3%増加)

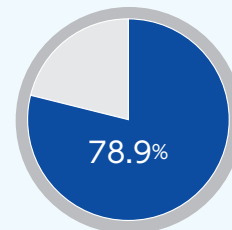
売上高

33,313 百万円 (前期比7.1%増加)

営業利益

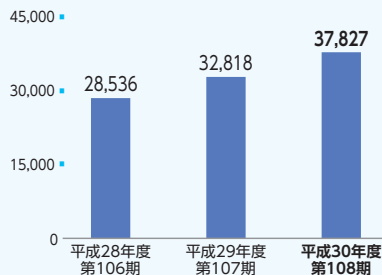
1,298 百万円 (前期比30.6%増加)

売上高構成比



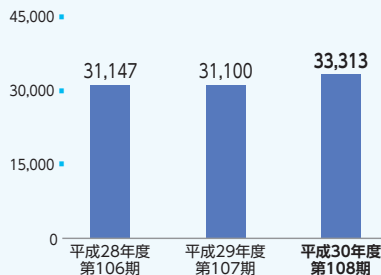
受注高

(単位：百万円)



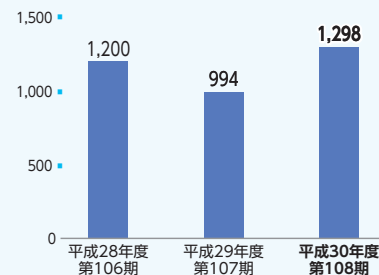
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



ツダコマの主な製品

繊維機械

エアジェットルーム・ウォータージェットルーム

水や空気の噴射力を使ってヨコ糸を織り込んでいく織物機械がジェットルームです。最新の電子制御技術を駆使して、1分間に1,000本以上のヨコ糸を織り込みながら、現代の産業界に欠かせない省エネや省人化を両立させました。

流行の衣料素材から産業資材までさまざまな織物を織りこなします。



タオル用エアジェットルームZAX9200Terry

工作機械関連事業

受注高

9,678 百万円 (前期比3.0%減少)

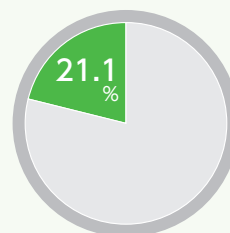
売上高

8,888 百万円 (前期比3.5%増加)

営業利益

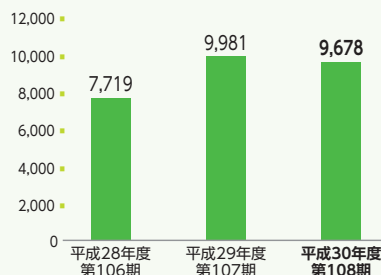
899 百万円 (前期比15.1%増加)

売上高構成比



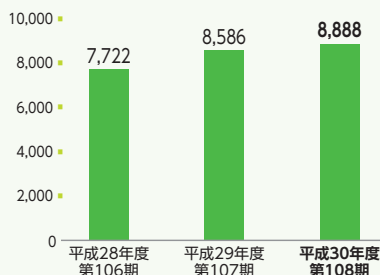
受注高

(単位: 百万円)



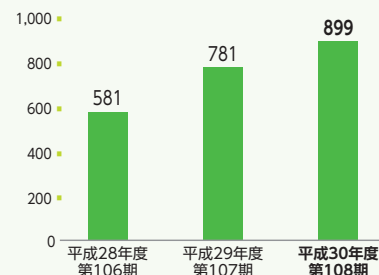
売上高

(単位: 百万円)



営業利益

(単位: 百万円)

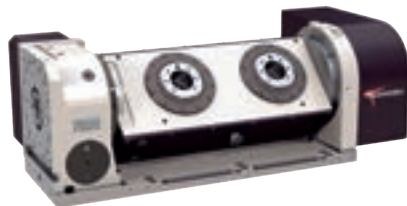


工作機械関連

NC円テーブル・マシンバイスなど

精密な部品加工に欠かせないNC円テーブルやマシンバイスを開発しています。

人気のスマートフォンから航空機、宇宙産業まで、さまざまな産業分野でご利用いただける製品ラインアップと高速性、高精度、耐久性が最大の特長です。

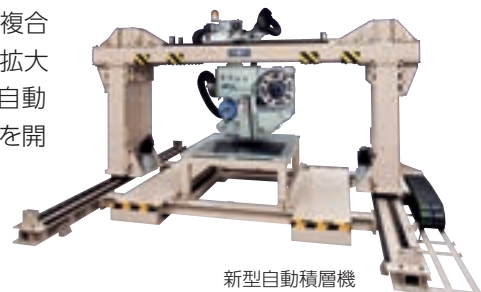


最新型2連NC円テーブル

コンポジット機械

炭素繊維複合素材の自動積層機

21世紀の素材革命といわれる炭素繊維複合素材の自動積層機を開発しています。すでに新型航空機の機体の部材生産に使われています。また、自動車など炭素繊維複合素材の利用分野の拡大に先立ち、新しい自動積層機や周辺装置を開発しています。



新型自動積層機



キーワードで知る津田駒

「ティーバッグ」

ティーバッグと津田駒。一見なんの関係もなさそうな両者ですが、実は深い関係があるんです。



ティーバッグにもジェットルームが活躍しています。

日本茶や紅茶の葉を入れた三角錐のティーバッグ。実は、これ織物なのです。茶葉がこぼれ出ないように、極細の糸を使って正確な密度で織られています。一部には生分解性(土に還る)の糸も用いられていて、環境にやさしい製品です。実は今、国内でティーバッグ用の当社ジェットルームの需要が高まっています。

ジェットルームというと、洋服の生地を織るというイメージがありますが、ティーバッグ用生地や筋肉痛の時に貼る湿布剤用の生地、農業用の寒冷紗、壁紙材、工事現場のブルーシートなど、様々な分野で使われています。表面に表れない部分でも、緑色の電子基板のベースにはガラス糸で織られた織物が、自動車のタイヤの芯地にはタイヤコードという特殊な織物が使われています。

加工しやすく、軽量で、量産が可能な素材「織物」。衣料のほかにも、このようにいろいろなところで活躍しています。そして、それらの陰で、津田駒のジェットルームが一生懸命動いています。

ティータイムのかたわらにも、津田駒がいることも少しだけ思い出していただければ幸いです。



周年記念にイノベーションを再確認 110th Innovation

2019年は津田駒創業110周年の年にあたります。津田駒ではこれを記念して110th Innovationという記念ロゴを作りました。AnniversaryではなくInnovationです。「僕たちはメーカーとしてInnovationを忘れてはならない。みんなで110年目のInnovation、110回目の改革を起こす一年にしよう」。社長のこんな一言から生まれたロゴです。



モノづくり企業のシステム構築に注目集まる

昨年11月に東京で開催された日本工作機械見本市JIMTOF2018で、当社はTRIシステムを実機として初めて展示し、来場者の高い関心を集めました。展示したシステムでは、ロボットがハンド部分を自動で交換しながら、部材の把持、治具の着脱、部材の固定、ナットの着脱などの作業を自動で行いました。



モノづくり企業だからできるシステム構築がTRIの大きなメリットであることを十分にアピールすることができました。

TAPS活動で社内の改善意識を向上

昨年12月20日、TAPS・TAPS-Eの第4回全社発表会が行われました。TAPS・TAPS-Eは、製造部門、管理部門がそれぞれで展開する小集団活動です。平成29年に5チームで始まったTAPS活動が、年々広がりを見せて、定期的に全社発表会ができるまでになりました。今回の発表は9チームがQC手法を駆使した高度な活動内容を報告しました。



当社では、積極的な設備投資とともに、従業員個々の、主体的な改善意識の醸成を図って生産性、品質の向上に努めています。

省水性能で環境性能をアピール

昨年11月に上海で開催された国際繊維機械見本市ITMA ASIA+CITME2018で、当社は従来製品より使用水量を10%削減できる新型ノズルを搭載したウォー



タジェットルームZW8100 Professionalを出展しました。この製品は省水だけでなく省電力や低振動などの性能を有し、環境規制が厳しさを増す中国市場のお客さまから高い評価をいただきました。

連結財務データ

連結貸借対照表 (単位：百万円)

科 目	前 期 平成29年11月30日現在	当 期 平成30年11月30日現在
資 産 の 部		
流動資産	25,665	27,303
固定資産	12,693	12,303
有形固定資産	9,522	9,321
無形固定資産	135	196
投資その他の資産	3,035	2,785
資 産 合 計	38,358	39,606
負 債 の 部		
流動負債	18,491	17,430
固定負債	5,461	7,543
負 債 合 計	23,953	24,974
純 資 産 の 部		
株主資本	12,770	13,592
その他の包括利益累計額	550	△128
非支配株主持分	1,085	1,168
純 資 産 合 計	14,405	14,632
負債純資産合計	38,358	39,606

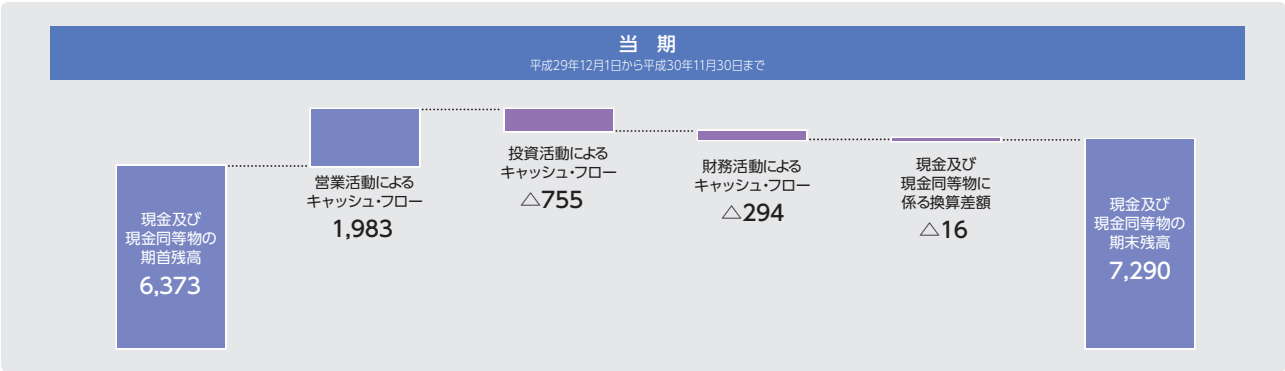
(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (単位：百万円)

科 目	前 期 平成28年12月 1日から 平成29年11月30日まで	当 期 平成29年12月 1日から 平成30年11月30日まで
売上高	39,686	42,201
営業利益	622	934
経常利益	356	841
税金等調整前当期純利益	342	817
当期純利益	273	912
親会社株主に帰属する当期純利益	183	823

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



会社概要

本社所在地	〒921-8650 石川県金沢市野町5丁目18番18号	資本金	123億1,654万円
設立	昭和14年12月30日（創業 明治42年3月）	従業員	961名

役員の状況（平成31年2月末日現在）

代表取締役会長	菱 沼 捷 二	
代表取締役社長	高 納 伸 宏	
常務取締役	松 任 宏 幸	管理部門統括、総務部長、輸出管理室長、津田駒機械設備（上海）有限公司 董事長、津田駒機械製造（常熟）有限公司 董事長、 ふあみーゆツダコマ株式会社 代表取締役
取締役	山 田 茂 生	共和電機工業株式会社担当、共和電機工業株式会社 代表取締役
取締役	北 野 浩 司	製造部門統括、品質保証部門担当、品質保証部長
取締役	坂 井 一 仁	コンボジット機械部門統括、準備機械技術部門担当、準備機械技術部長、株式会社T-Tech Japan 代表取締役
取締役	大 森 充 志	工作機械関連事業統括、工機技術部長、航空機部品推進室長、ツダコマテクノサポート株式会社 代表取締役
取締役	寺 田 武 進	繊維機械事業統括、繊維機械販売部長、TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED 代表取締役
取締役	越 潮 田 資 勝	
常勤監査役	橋 本 博	
常勤監査役	長 谷 政 隆	（澁谷工業株式会社 取締役副会長） （カジナイロン株式会社 代表取締役社長）
監査役	澁 梶	
執行役員	浅 井 俊 和	製造第1部長
執行役員	室 井 哲 也	生産技術部長
執行役員	山 田 和 史	繊維機械技術部長
執行役員	宮 田 幸 峰	調達部門担当、調達部長
執行役員	林 隆 峰	津田駒機械製造（常熟）有限公司 総経理

*取締役 越馬進治氏および潮田資勝氏は社外取締役です。
*監査役 澁谷 進氏及び梶 政隆氏は社外監査役です。

株式の概況（平成30年11月30日現在）

株式の状況

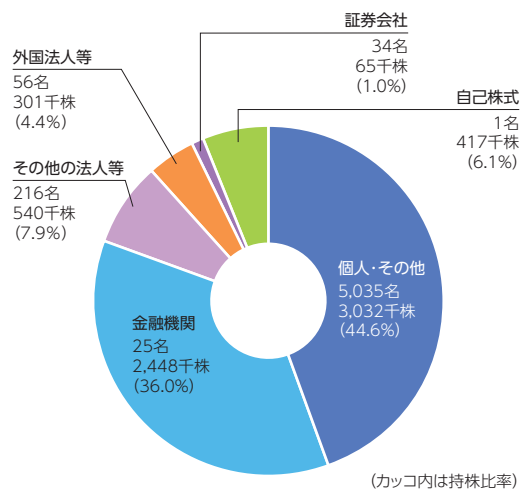
①発行可能株式総数	19,900,300株
②発行済株式の総数 （内自己株式の数）	6,807,555株 (417,704株)
③単元株式数	100株
④株主数	5,367名

大株主の状況

株 主 名	持株数（千株）
津田駒取引先持株会	968
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	741
明治安田生命保険相互会社	350
株式会社北陸銀行	258
株式会社北國銀行	232
三井住友海上火災保険株式会社	178
東京海上日動火災保険株式会社	177
ツダコマ従業員持株会	174
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	133
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	86

（注1）当社の保有する自己株式417千株は上記表には含んでおりません。
（注2）当社は平成30年6月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。

株式の分布状況





株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年11月30日 中間配当 毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	当社ホームページ上に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所（第1部）
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
（電話照会先）	TEL 0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国 各支店で行っております。

ホームページのご案内

<https://www.tsudakoma.co.jp/>

単元株式数の変更と株式併合について

当社は2018年6月1日をもって株式売買等の利便性の向上を目的として、単元株式数を1,000株から100株に変更することといたしました。あわせて、適切な投資単位水準への調整を目的として、当社株式について10株を1株とする株式併合を行うことといたしました。なお、この併合に伴う株主様による特段のお手続きの必要はございません。